

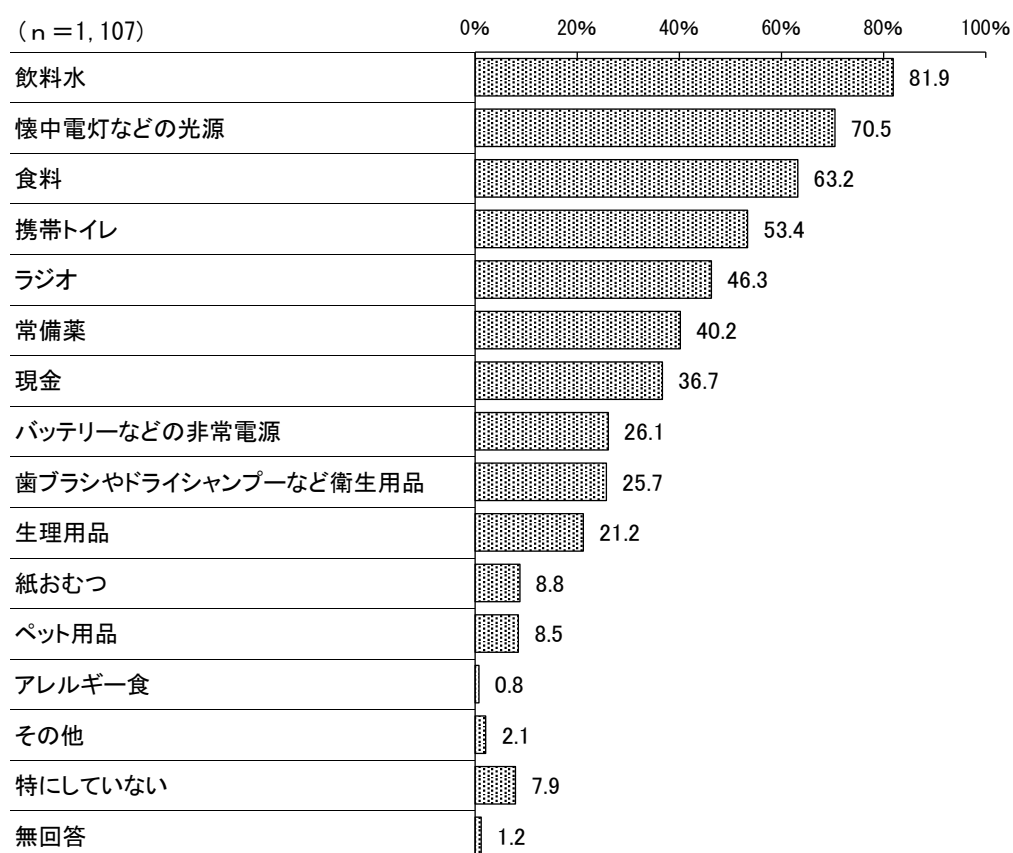
2 防災について

(1) 家庭で備蓄しているもの

◇「飲料水」が8割を超える

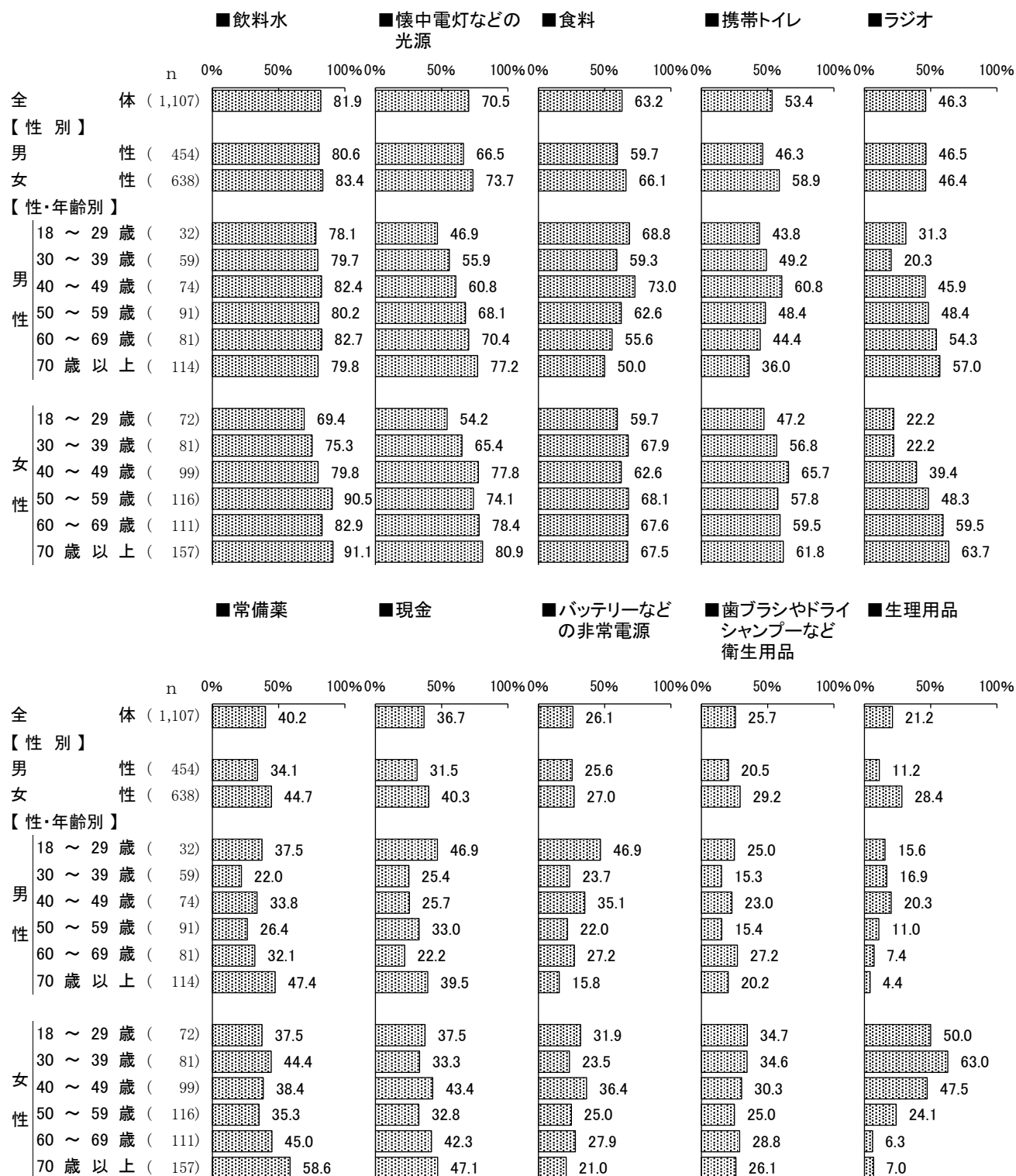
問23 大地震発生時には、ライフライン（電気、ガス、上下水道）が停止したり、電話がつながりにくくなるなど、日常生活が困難となることが想定されます。こうした事態に備えて、家庭で備蓄しているものは何ですか。
次にあげるもののうち、日頃から備えているものに○をつけてください。
(○はいくつでも)

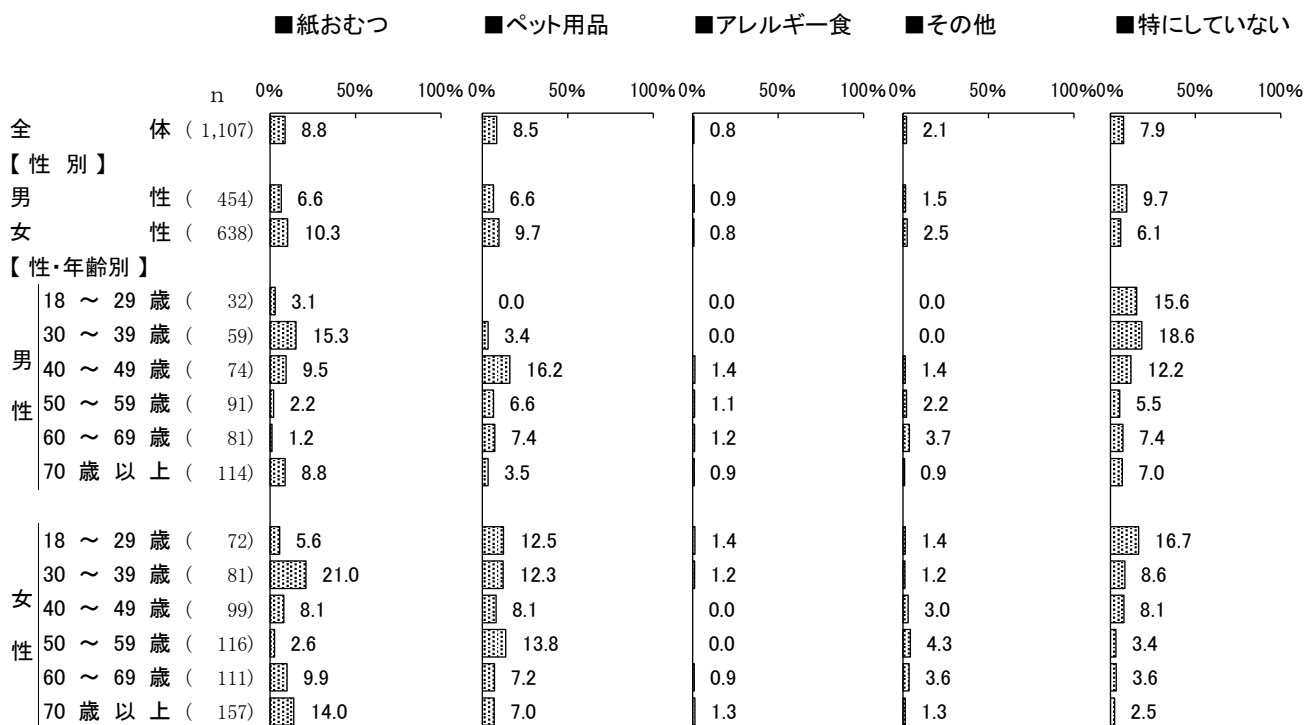
図2-1-1 家庭で備蓄しているもの



家庭で備蓄しているものについて聞いたところ、「飲料水」（81.9%）が8割を超えて最も多く、次いで「懐中電灯などの光源」（70.5%）、「食料」（63.2%）、「携帯トイレ」（53.4%）、「ラジオ」（46.3%）、「常備薬」（40.2%）などの順となっている。一方、「特にしていない」（7.9%）は1割近くとなっている。（図2-1-1）

図 2-1-2 家庭で備蓄しているもの－性別／性・年齢別





性別にみると、ほとんどの項目で女性の方が男性より高くなっており、「携帯トイレ」は女性の方が男性より12.6ポイント、「常備薬」は10.6ポイント、「現金」は8.8ポイント、「歯ブラシやドライシャンプーなど衛生用品」は8.7ポイント、「懐中電灯などの光源」は7.2ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別にみると、「懐中電灯などの光源」は、おおむね年代が上がるほど割合が多くなっており、女性70歳以上で約8割となっている。「食料」は男性40～49歳で7割を超えて多くなっている。「携帯トイレ」は女性40～49歳で6割半ばと多くなっている。また、「ラジオ」は女性70歳以上で6割を超えて多くなっている。(図2-1-2)

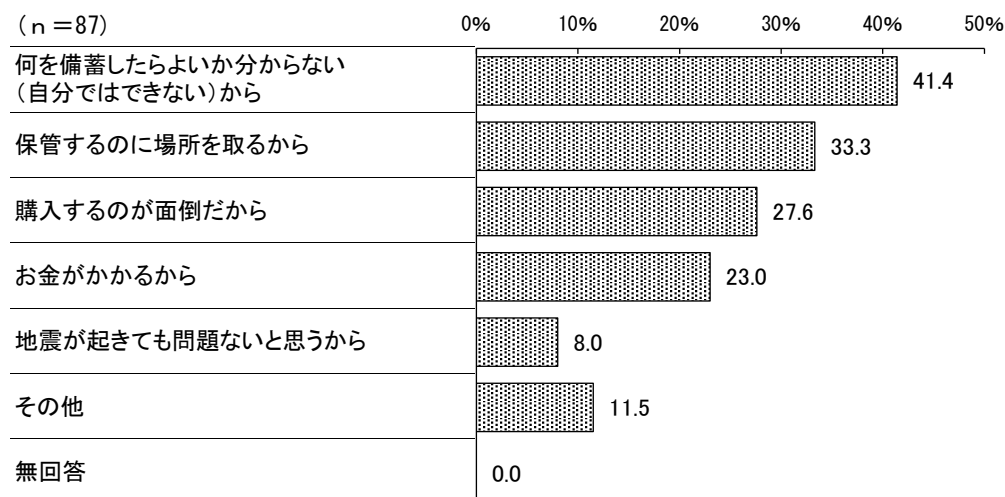
（１－１）備蓄をしていない理由

◇「何を備蓄したらよいか分からない（自分ではできない）から」が４割を超える

【 問23で「15 特にしていない」と回答した方へ 】

問23－１ あなたが備蓄をしていない理由は何ですか。（○はいくつでも）

図２－１－３ 備蓄をしていない理由



家庭での備蓄について「特にしていない」と答えた方（87人）に、備蓄をしていない理由について聞いたところ、「何を備蓄したらよいか分からない（自分ではできない）から」（41.4%）が４割を超えて最も多く、次いで「保管するのに場所を取るから」（33.3%）、「購入するのが面倒だから」（27.6%）などの順となっている。（図２－１－３）

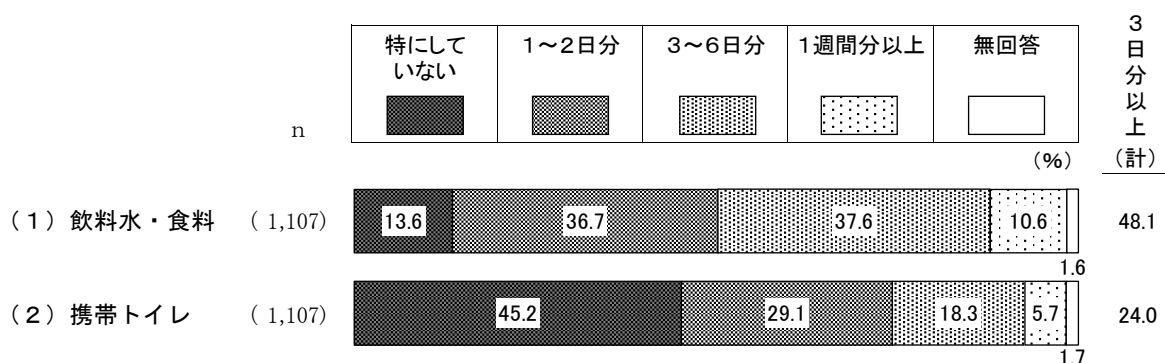
（２）家庭での備蓄量

◇飲料水・食料は『３日分以上』が５割近く

◇携帯トイレは「特にしていない」が４割半ば

問24 家庭での備蓄は、最低でも３日分、可能な限り１週間分備えておくことが重要です。
問23でお聞きしたもののうち、（１）飲料水・食料、（２）携帯トイレはそれぞれの
どのくらい備蓄していますか。（○はそれぞれ１つ）

図２－２－１ 家庭での備蓄量

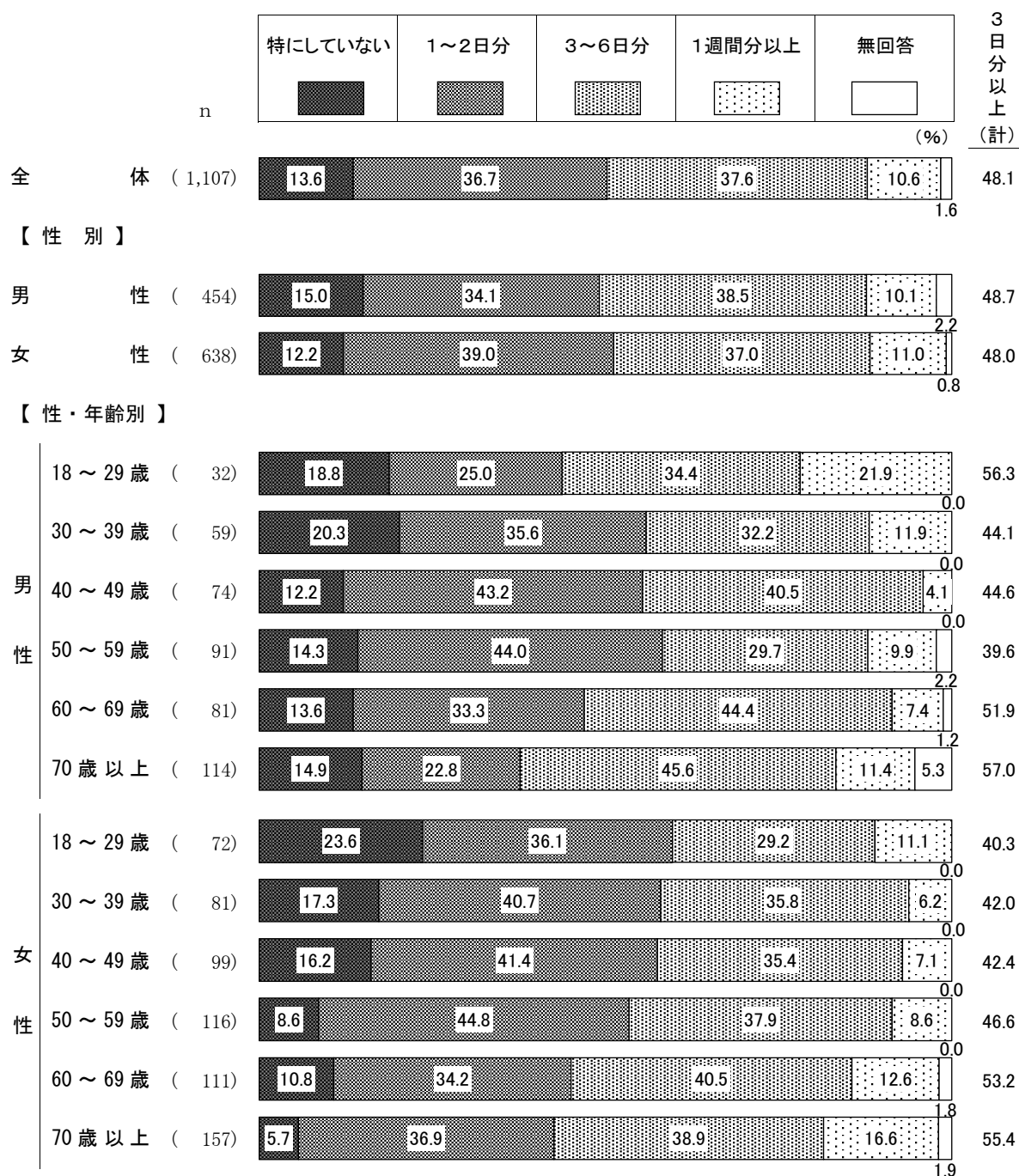


家庭での備蓄量を聞いたところ、（１）飲料水・食料は、「３～６日分」（３７．６％）が４割近く、「１週間分以上」（１０．６％）が約１割となっており、この２つを合わせた『３日分以上』（４８．１％）が５割近くとなっている。一方、「特にしていない」（１３．６％）は１割を超えている。

（２）携帯トイレは、「３～６日分」（１８．３％）と「１週間分以上」（５．７％）を合わせた『３日分以上』（２４．０％）が２割半ばとなっている。一方、「特にしていない」（４５．２％）は４割半ばとなっている。（図２－２－１）

図 2-2-2 家庭での備蓄量－性別／性・年齢別

(1) 飲料水・食料

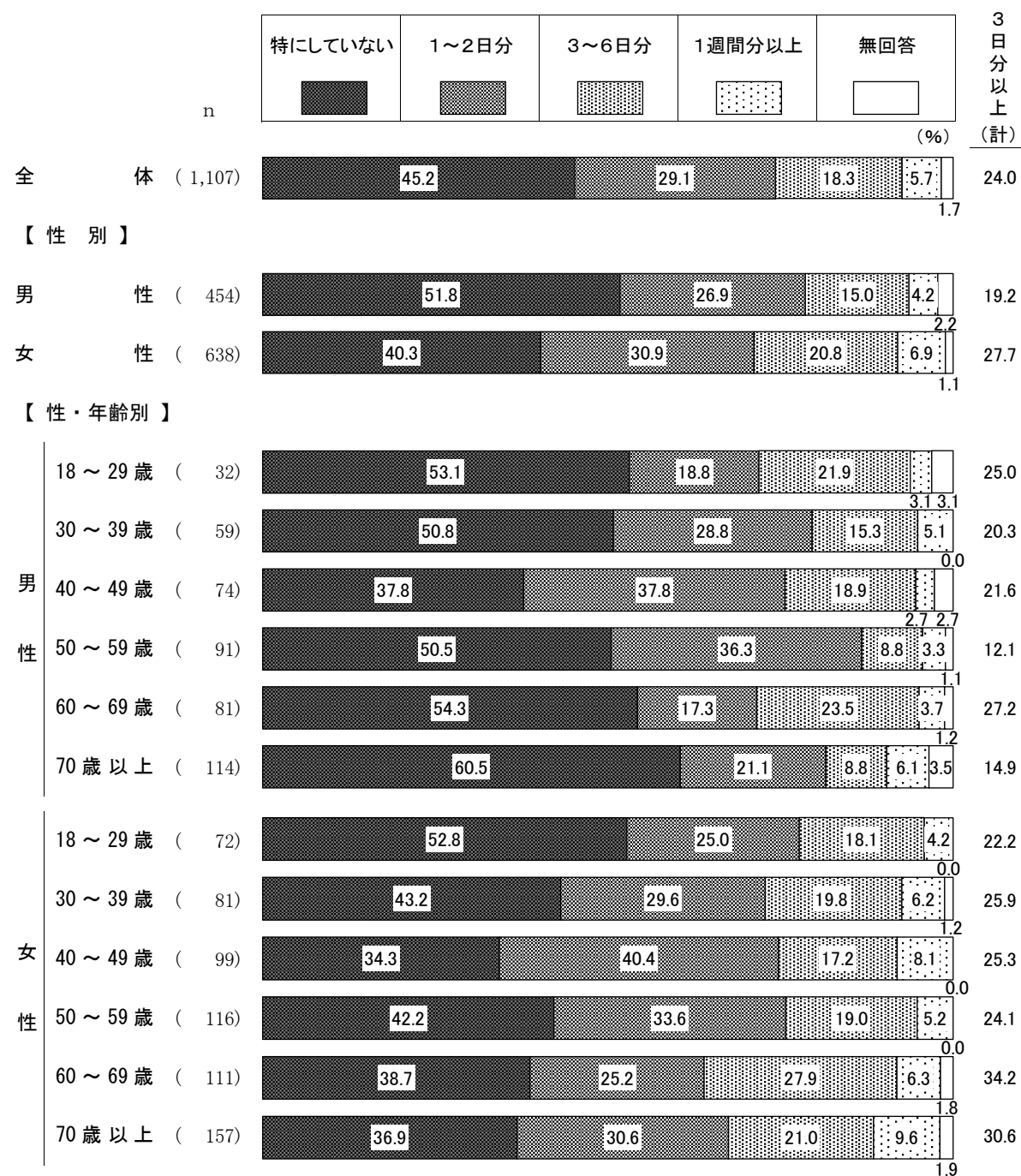


性別にみると、『家庭での備蓄量』に大きな差異はみられない。

性・年齢別にみると、『3日分以上』は男性70歳以上で6割近くと多くなっている。一方、「特にしていない」は女性18～29歳で2割を超えて多くなっている。(図2-2-2)

図 2-2-3 家庭での備蓄量－性別／性・年齢別

(2) 携帯トイレ



性別にみると、『3日分以上』は女性の方が男性より8.5ポイント高くなっている。一方、『特にしていない』は男性の方が女性より11.5ポイント高くなっている。

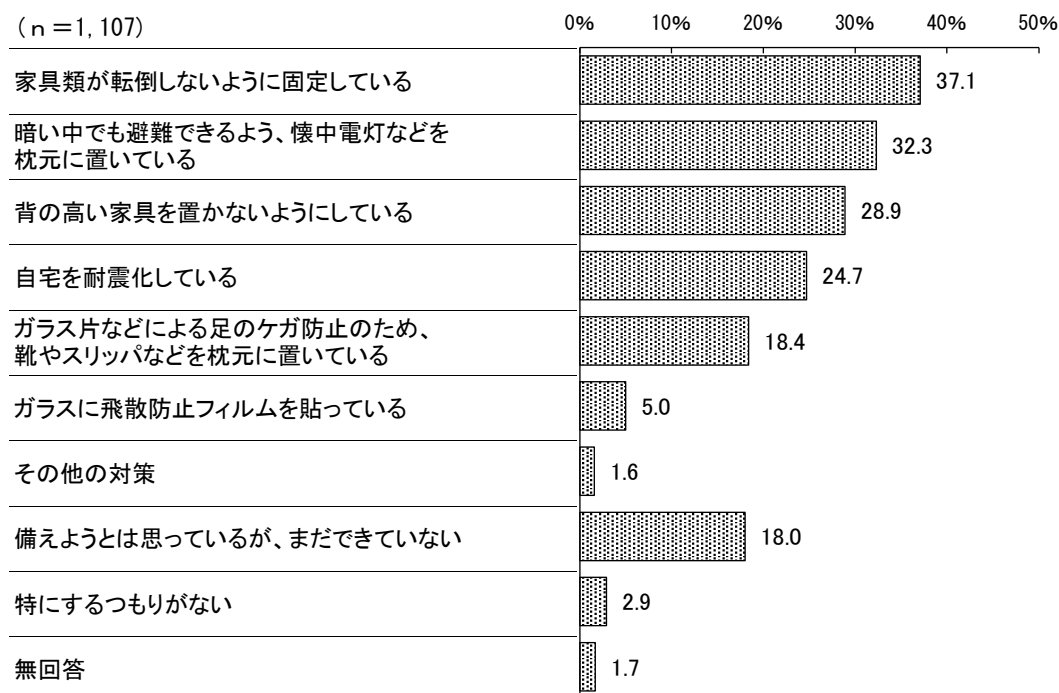
性・年齢別にみると、『3日分以上』は女性60～69歳で3割半ばと多くなっている。一方、『特にしていない』は男性70歳以上で約6割と多くなっている。(図2-2-3)

（３）実施している安全対策

◇「家具類が転倒しないように固定している」が４割近く

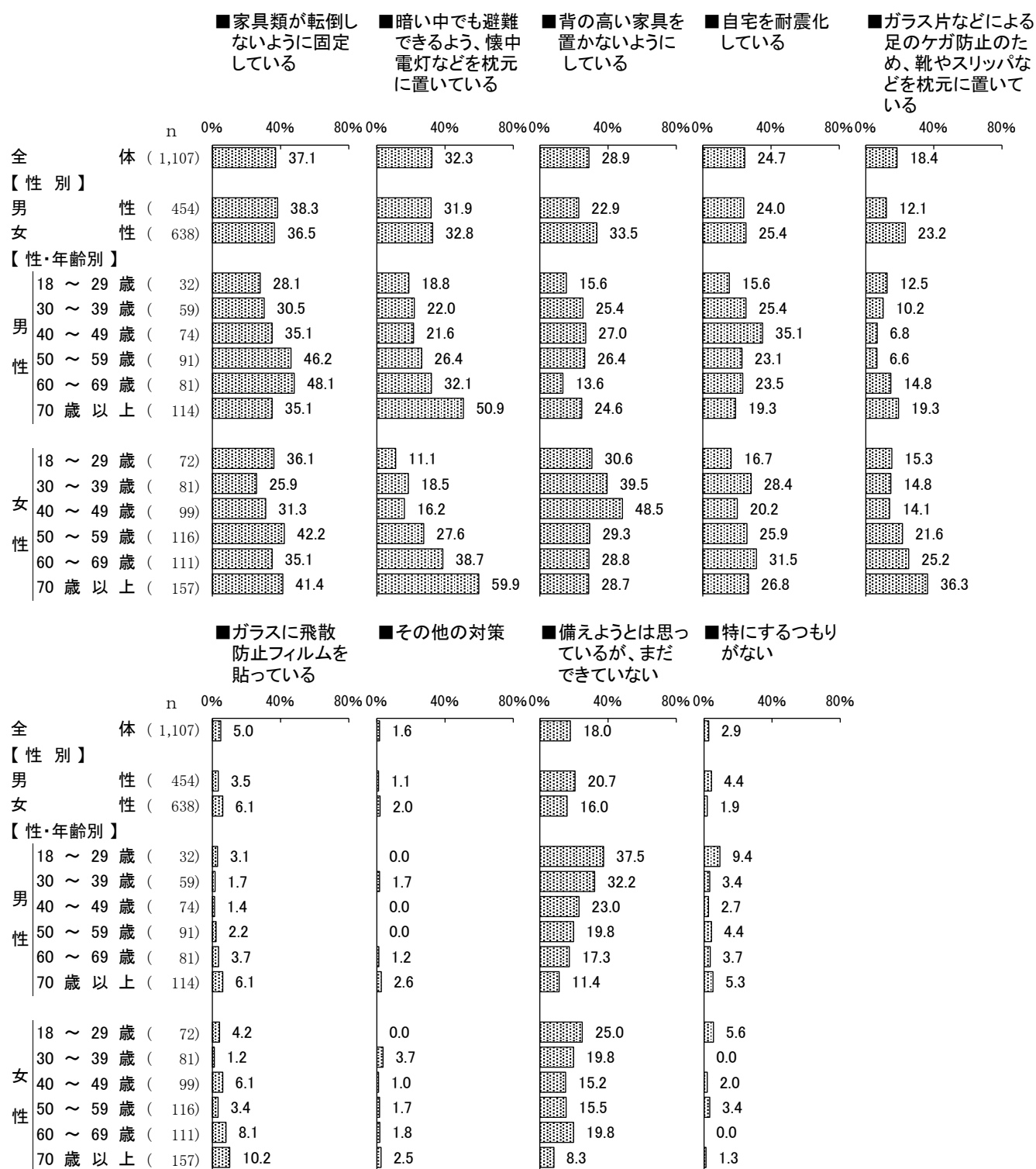
問25 地震によりケガをしないためには、建物や部屋の安全対策が重要です。
既に実施している対策はどれですか。（○はいくつでも）

図２－３－１ 実施している安全対策



既に実施している安全対策について聞いたところ、「家具類が転倒しないように固定している」（37.1%）が４割近くと最も多く、次いで「暗い中でも避難できるよう、懐中電灯などを枕元に置いている」（32.3%）、「背の高い家具を置かないようにしている」（28.9%）、「自宅を耐震化している」（24.7%）などの順となっている。一方、「備えようとは思っているが、まだできていない」（18.0%）は２割近くとなっている。（図２－３－１）

図2-3-2 日頃から行っている安全対策－性別／性・年齢別



性別にみると、ほとんどの項目で女性の方が男性より高くなっており、「ガラス片などによる足のケガ防止のため、靴やスリッパなどを枕元に置いている」は女性の方が男性より11.1ポイント、「背の高い家具を置かないようにしている」は10.6ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別にみると、「家具類が転倒しないように固定している」は男性60～69歳で5割近くと多くなっている。「暗い中でも避難できるように、懐中電灯などを枕元に置いている」は、おおむね年代が上がるほど割合が多くなっており、女性70歳以上で6割となっている。一方、「備えようとは思っているが、まだできていない」は、おおむね年代が下がるほど割合が多くなっており、男性18～29歳で4割近くとなっている。（図2-3-2）

（３－１）安全対策をしていない理由

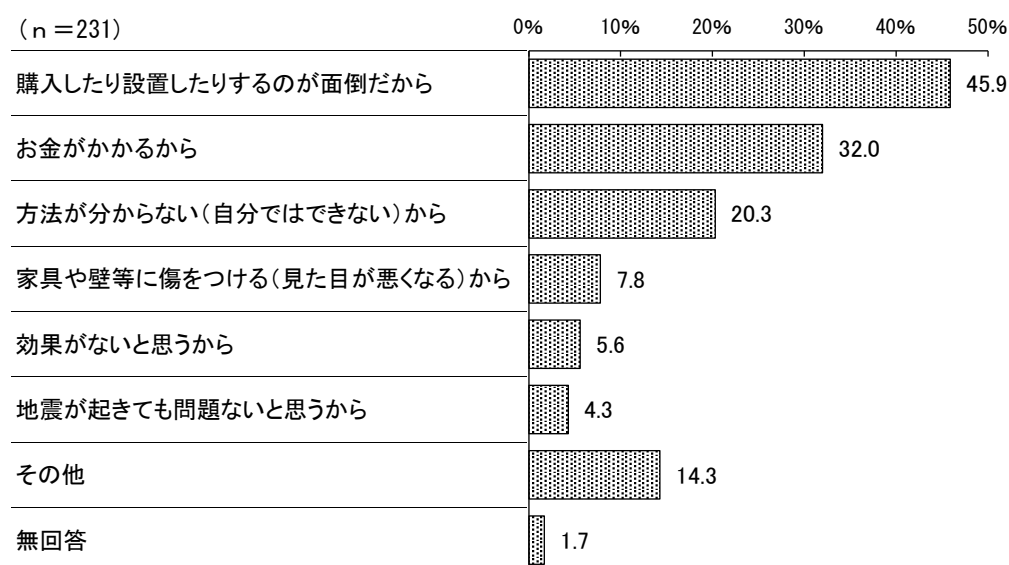
◇「購入したり設置したりするのが面倒だから」が４割半ば

【 問25で「８ 備えようとは思っているが、まだできていない」または「９ 特にするつもりがない」と回答した方へ 】

問25－１ あなたが安全対策などの備えをしていない理由は何ですか。

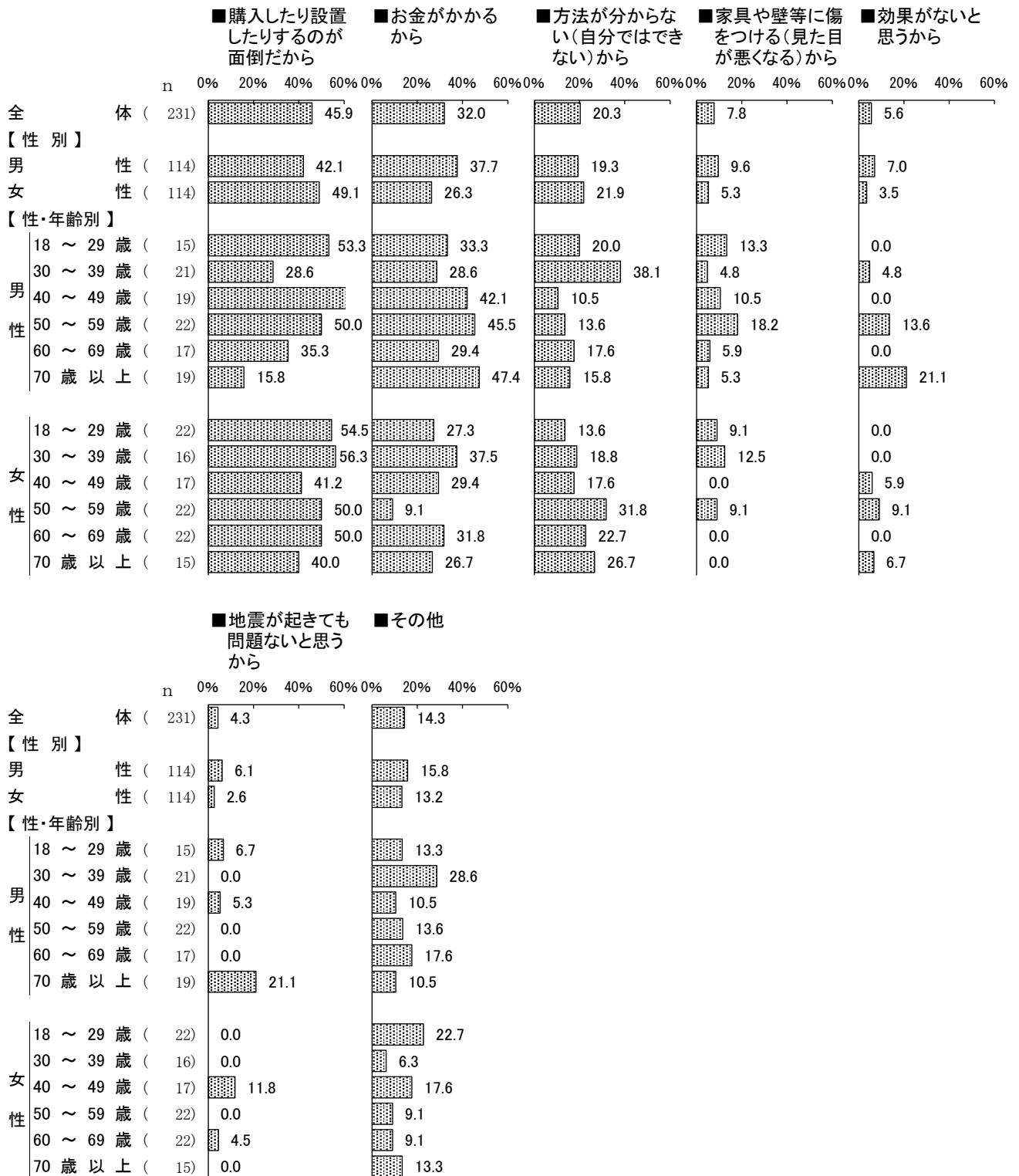
（〇はいくつでも）

図２－３－３ 安全対策をしていない理由



安全対策について「備えようとは思っているが、まだできていない」または「特にするつもりがない」と答えた方（231人）に、安全対策をしていない理由について聞いたところ、「購入したり設置したりするのが面倒だから」（45.9%）が４割半ばと最も多く、次いで「お金がかかるから」（32.0%）、「方法が分からない（自分ではできない）から」（20.3%）などの順となっている。（図２－３－３）

図 2-3-4 安全対策をしていない理由—性別／性・年齢別



性別にみると、「お金がかかるから」は男性の方が女性より11.4ポイント、「家具や壁等に傷をつける（見た目が悪くなる）から」は4.3ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「購入したり設置したりするのが面倒だから」は女性の方が男性より7.0ポイント高くなっている。

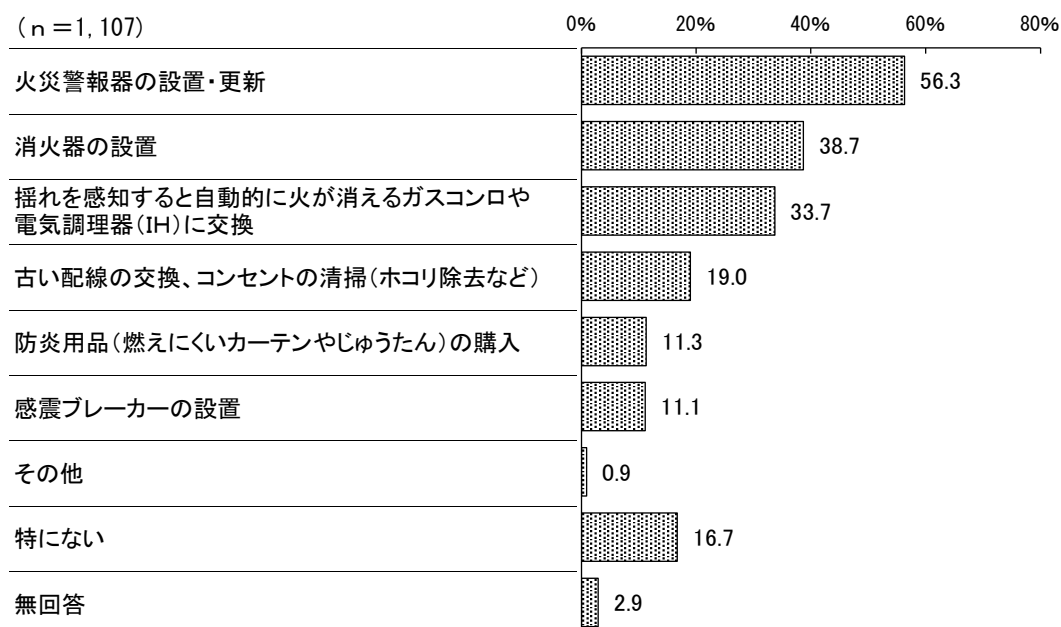
性・年齢別はn数が少ないので参考に図示する。（図 2-3-4）

（４）自宅で行っている火災対策

◇「火災警報器の設置・更新」が５割半ば

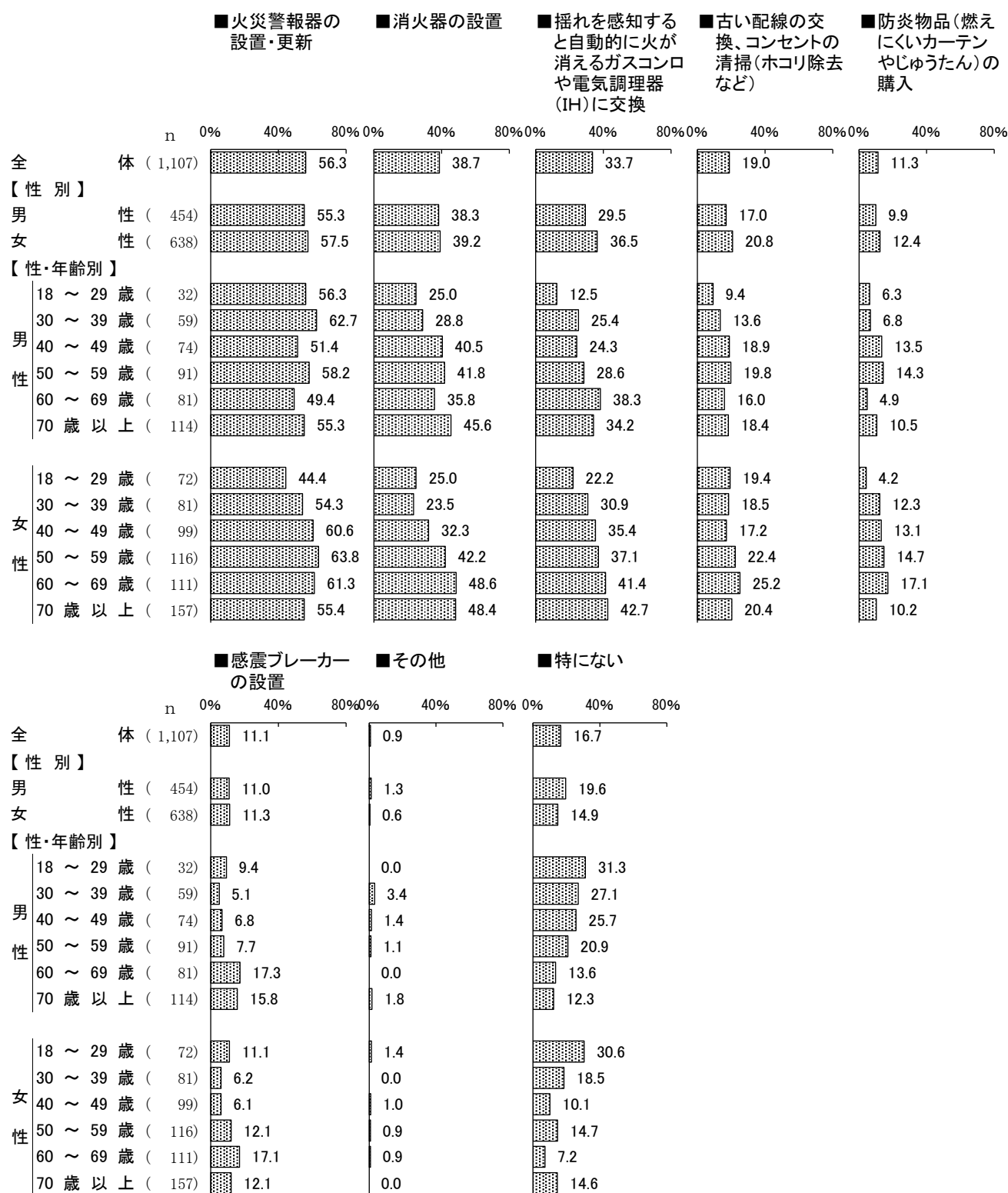
問26 地震による火災を防止するためには、出火防止と初期消火が極めて重要です。
自宅で行っている対策はありますか。（○はいくつでも）

図２－４－１ 自宅で行っている火災対策



自宅で行っている火災対策について聞いたところ、「火災警報器の設置・更新」（56.3%）が５割半ばと最も多く、次いで「消火器の設置」（38.7%）、「揺れを感知すると自動的に火が消えるガスコンロや電気調理器（IH）に交換」（33.7%）、「古い配線の交換、コンセントの清掃（ホコリ除去など）」（19.0%）などの順となっている。一方、「特にない」（16.7%）は２割近くとなっている。（図２－４－１）

図 2-4-2 自宅で行っている火災対策－性別／性・年齢別



性別にみると、「揺れを感知すると自動的に火が消えるガスコンロや電気調理器（IH）に交換」は女性の方が男性より7.0ポイント、「古い配線の交換、コンセントの清掃（ホコリ除去など）」は3.8ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「特にない」は男性の方が女性より4.7ポイント高くなっている。

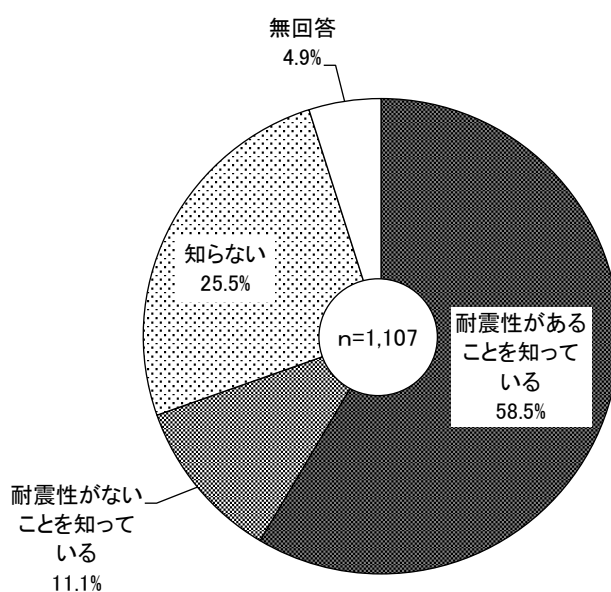
性・年齢別にみると、「火災警報器の設置・更新」は男性30～39歳、女性50～59歳、女性60～69歳で6割を超えて多くなっている。「消火器の設置」は、おおむね年代が上がるほど割合が多くなっており、女性60～69歳、女性70歳以上で5割近くと多くなっている。（図2-4-2）

（５）住まいの建物の耐震性の認知状況

◇「耐震性があることを知っている」が６割近く

問27 令和６年能登半島地震では、建物倒壊による圧死が死因全体の約４割を占めています。また、昭和56年５月以前（旧耐震基準）の建物に加え、平成12年５月までに建築された木造住宅（いわゆる2000年基準を満たさない建物）も数多く倒壊しました。このことからもお住まいの建物の耐震性を知ることは極めて重要です。あなたは住まいの建物が、耐震性のある建物かどうか知っていますか。
（○は１つ）

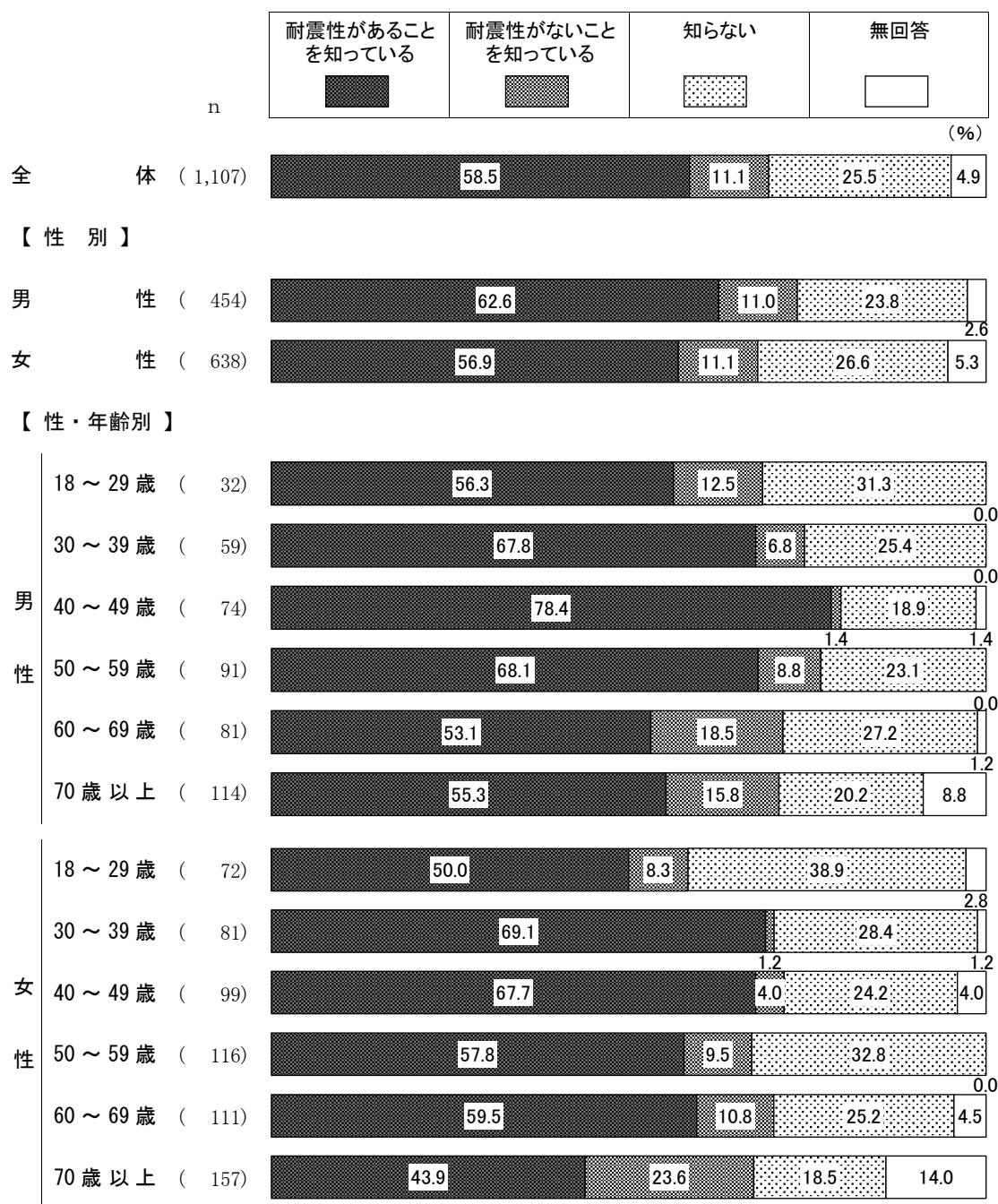
図２－５－１ 住まいの建物の耐震性の認知状況



住まいの建物が耐震性のある建物かどうかを知っているか聞いたところ、「耐震性があることを知っている」（58.5%）が６割近くとなっており、「耐震性がないことを知っている」（11.1%）は１割を超えている。一方、「知らない」（25.5%）は２割半ばとなっている。

（図２－５－１）

図 2-5-2 住まいの建物の耐震性の認知状況－性別／性・年齢別



性別にみると、「耐震性があることを知っている」は男性の方が女性より5.7ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「耐震性があることを知っている」は男性40～49歳で8割近くと多くなっている。「耐震性がないことを知っている」は女性70歳以上で2割を超えて多くなっている。一方、「知らない」は女性18～29歳で4割近くと多くなっている。(図2-5-2)

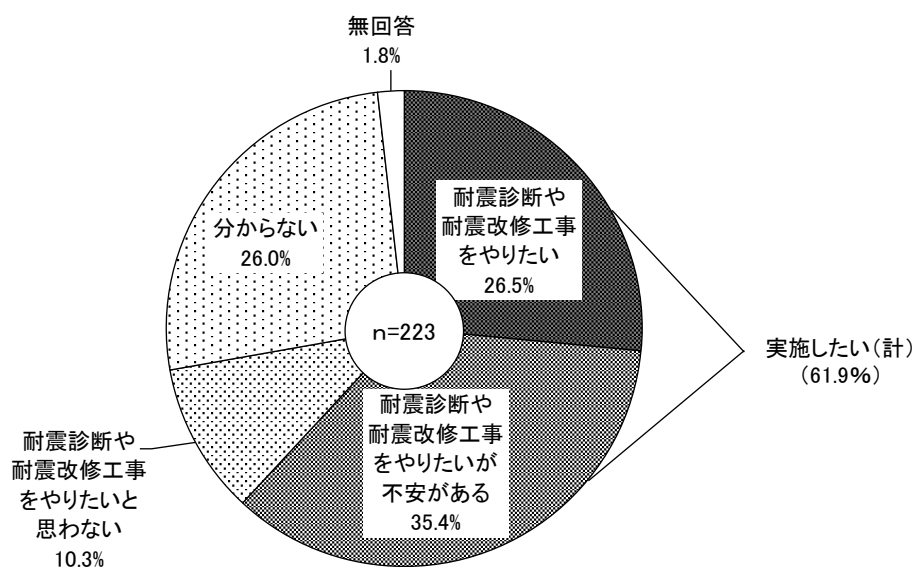
（５－１）耐震診断や耐震改修工事の意向

◇『実施したい』が６割を超える

【 問27で「２ 耐震性がないことを知っている」または「３ 知らない」と回答した方で、自己所有もしくはご家族が所有する住宅にお住まいの方へ 】

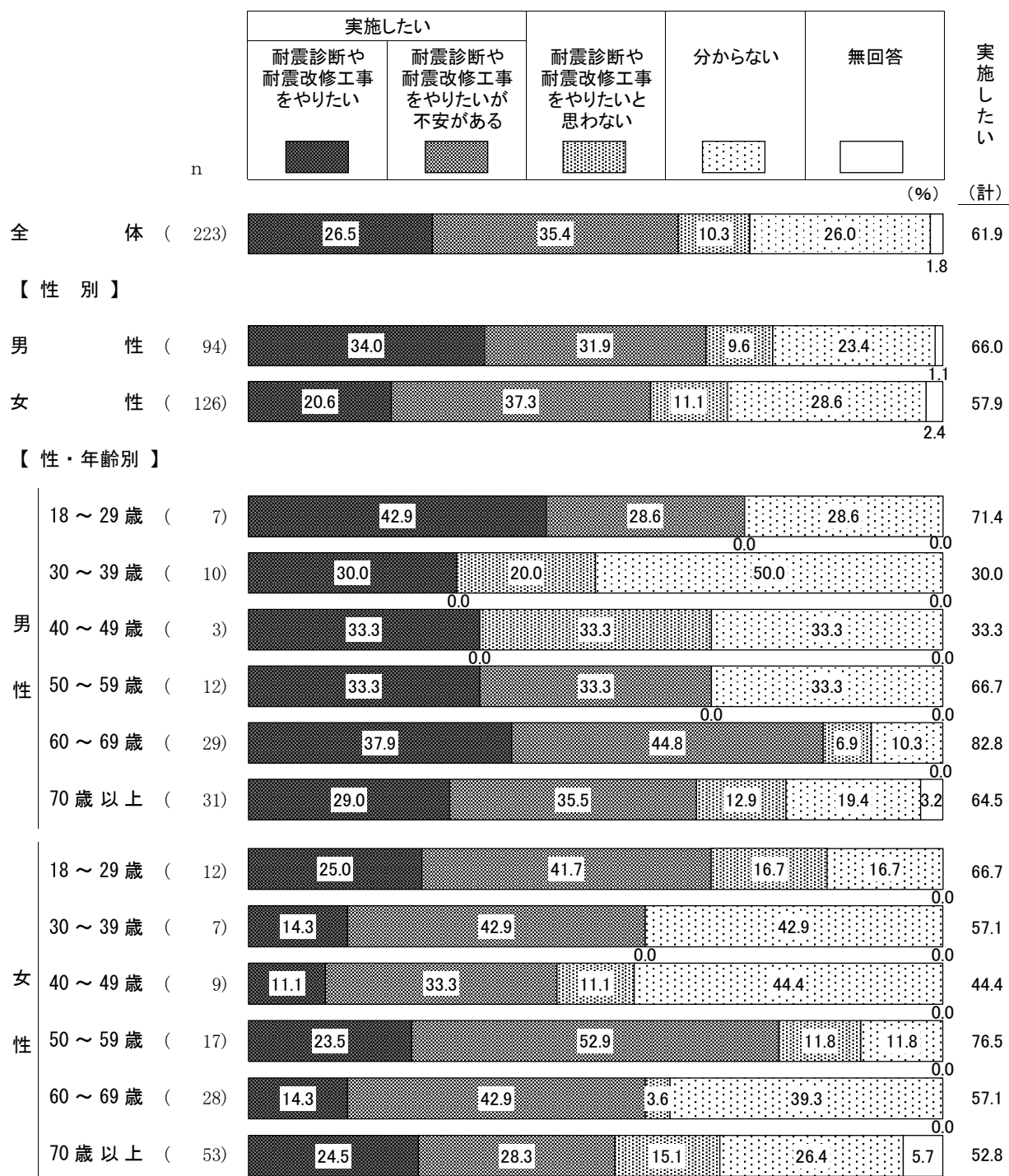
問27－１ お住まいの建物の耐震診断を受け、耐震性がない場合には、耐震改修工事を実施することで、地震に対して強い建物とすることができます。
あなたがお住まいの建物の耐震診断や耐震改修工事を実施することについて、どのように思いますか。（○は１つ）

図 2－5－3 耐震診断や耐震改修工事の意向



住まいの建物が耐震性のある建物かどうかを知っているかについて「耐震性がないことを知っている」または「知らない」と答えた方で、自己所有もしくはご家族が所有する住宅にお住まいの方（223人）に、耐震診断や耐震改修工事を実施することについてどのように思うか聞いたところ、「耐震診断や耐震改修工事をやりたい」（26.5%）が３割近く、「耐震診断や耐震改修工事をやりたいが不安がある」（35.4%）が３割半ばとなっており、この２つを合わせた『実施したい』（61.9%）が６割を超えている。一方、「耐震診断や耐震改修工事をやらないと思う」（10.3%）は１割となっている。（図 2－5－3）

図 2-5-4 耐震診断や耐震改修工事の意向－性別／性・年齢別



性別にみると、「耐震診断や耐震改修工事をやりたい」は男性の方が女性より13.4ポイント高くなっている。一方、「耐震診断や耐震改修工事をやりたいが不安がある」は女性の方が男性より5.4ポイント高くなっている。

性・年齢別はn数が少ないので参考に図示する。(図2-5-4)

（５－２）耐震診断や耐震改修工事を実施していない理由

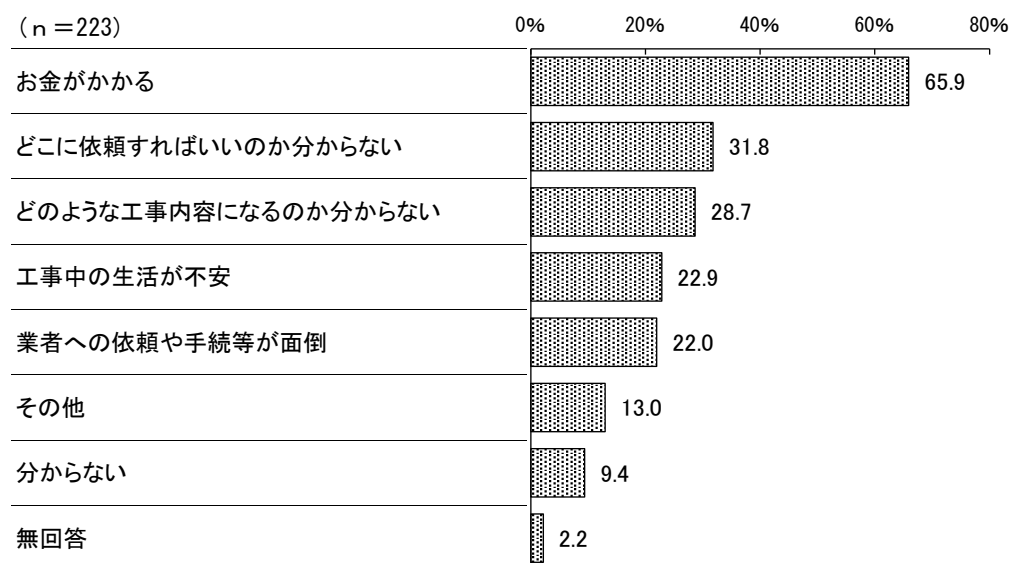
◇「お金がかかる」が６割半ば

【 問27で「２ 耐震性がないことを知っている」または「３ 知らない」と回答した方で、自己所有もしくはご家族が所有する住宅にお住まいの方へ 】

問27－２ あなたが耐震診断や耐震改修工事を実施していない理由は何ですか。

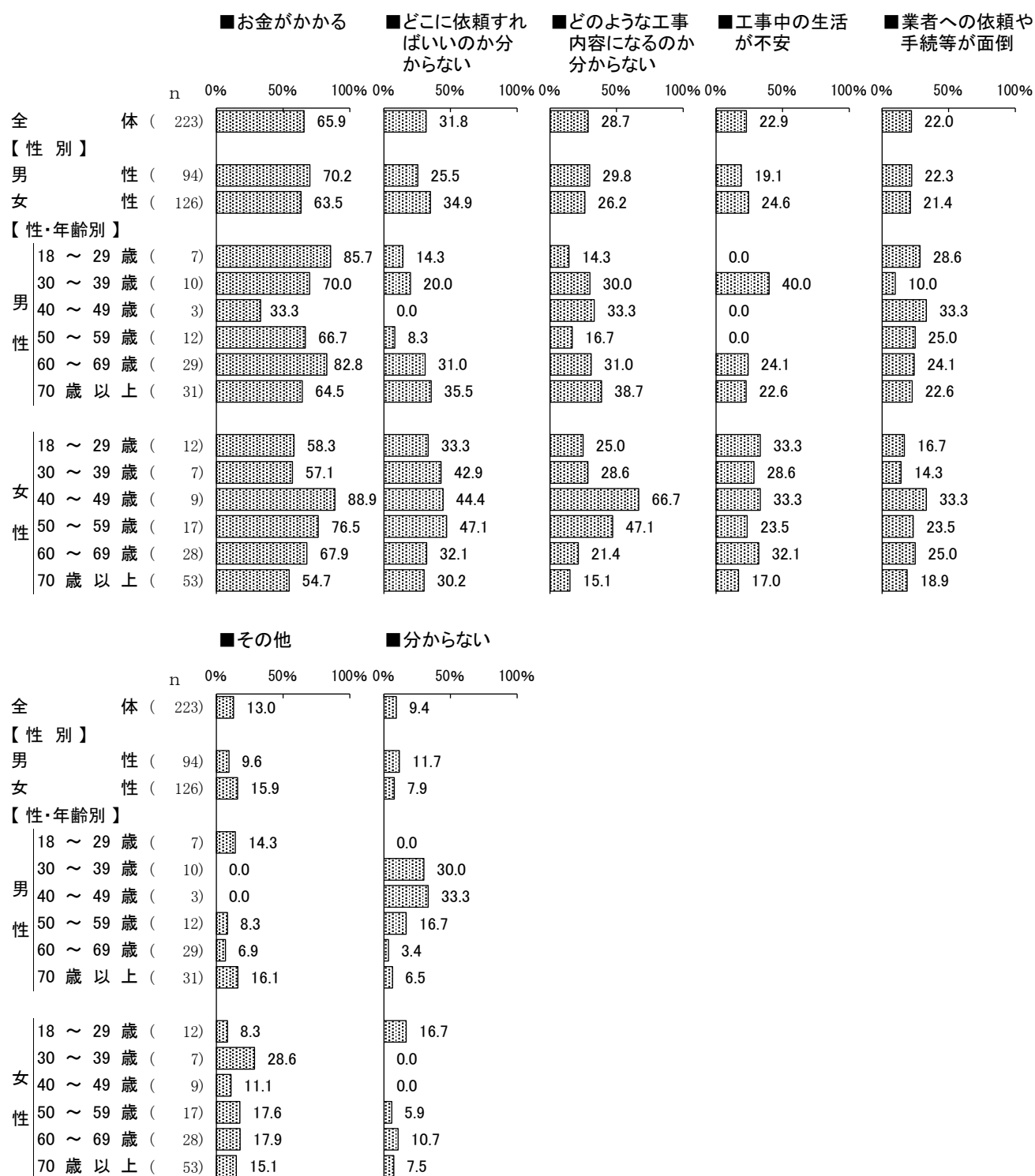
（〇はいくつでも）

図２－５－６ 耐震診断や耐震改修工事を実施していない理由



住まいの建物が耐震性のある建物かどうかを知っているかについて「耐震性がないことを知っている」または「知らない」と答えた方で、自己所有もしくはご家族が所有する住宅にお住まいの方（223人）に、耐震診断や耐震改修工事を実施していない理由を聞いたところ、「お金がかかる」（65.9%）が６割半ばと最も多く、次いで「どこに依頼すればいいのか分からない」（31.8%）、「どのような工事内容になるのか分からない」（28.7%）、「工事中の生活が不安」（22.9%）などの順となっている。（図２－５－６）

図 2-5-7 耐震診断や耐震改修工事を実施していない理由－性別／性・年齢別



性別にみると、「どこに依頼すればいいのかわからない」は女性の方が男性より9.4ポイント、「工事中の生活が不安」は5.5ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「お金がかかる」は男性の方が女性より6.7ポイント高くなっている。

性・年齢別はn数が少ないので参考に図示する。（図 2-5-7）

（６）中高層住宅特有の被害で知っているもの

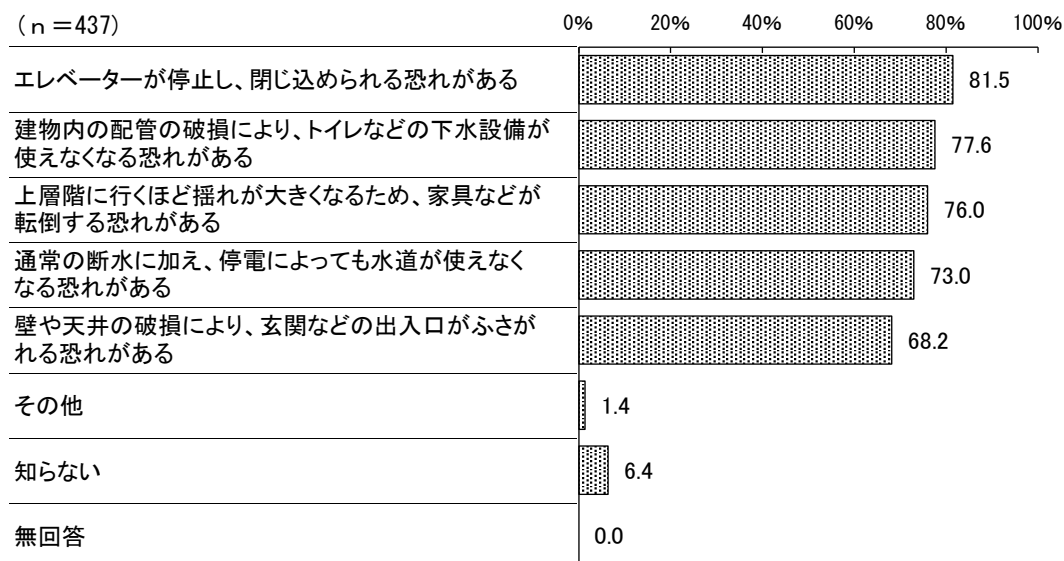
◇「エレベーターが停止し、閉じ込められる恐れがある」が８割を超える

【中高層住宅（３階建て以上のマンション・共同住宅）にお住まいの方へ】

問28 次の中高層住宅特有の被害のうち、あなたが知っているものを選んでください。
（○はいくつでも）

※ご自身が１・２階にお住まいでも、建物自体が３階建て以上の場合はご回答ください。

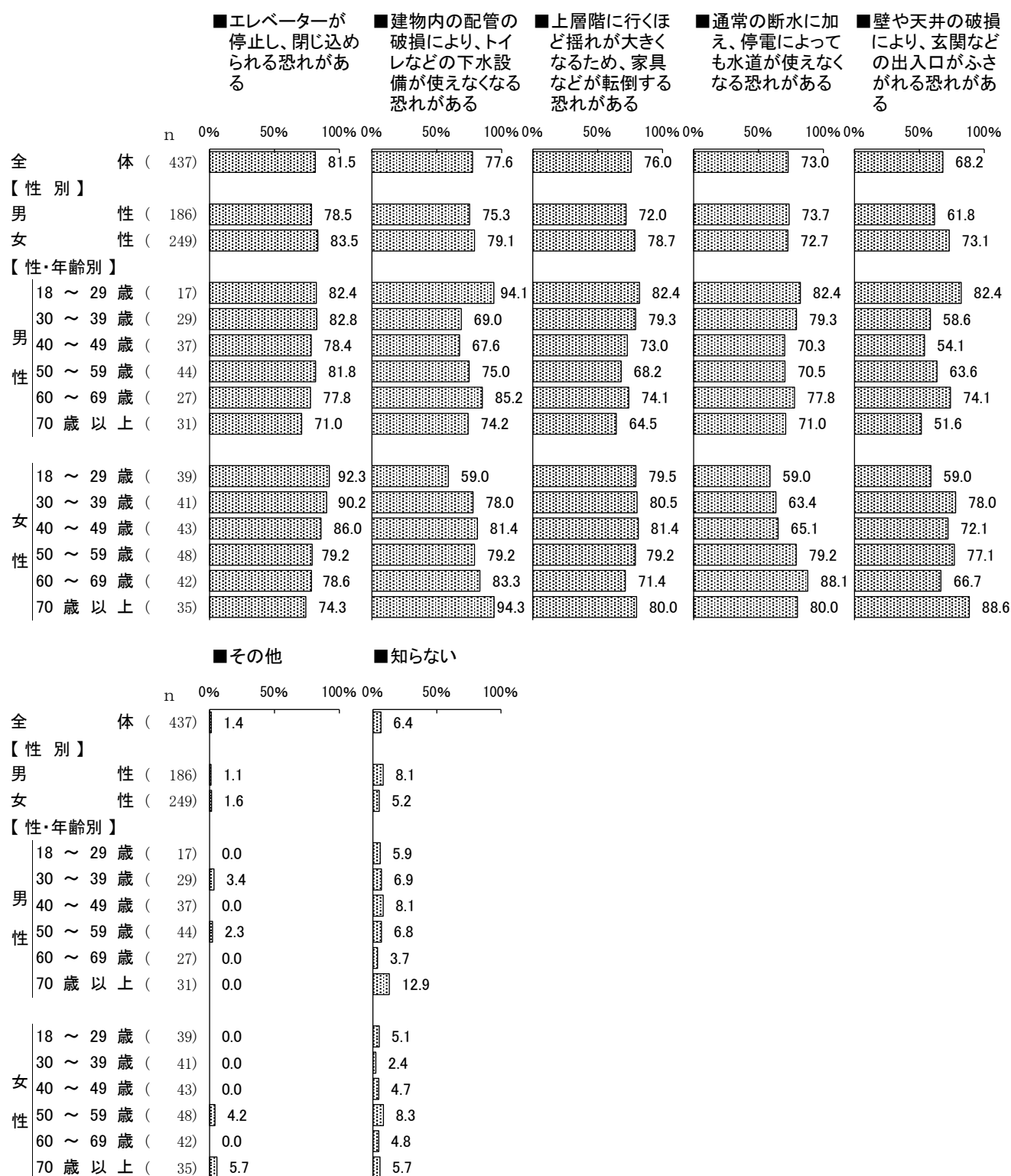
図２－６－１ 中高層住宅特有の被害で知っているもの



中高層住宅（３階建て以上のマンション・共同住宅）にお住まいの方（437人）に、中高層住宅特有の被害で知っているものについて聞いたところ、「エレベーターが停止し、閉じ込められる恐れがある」（81.5%）が８割を超えて最も多く、次いで「建物内の配管の破損により、トイレなどの下水設備が使えなくなる恐れがある」（77.6%）、「上層階に行くほど揺れが大きくなるため、家具などが転倒する恐れがある」（76.0%）などの順となっている。

（図２－６－１）

図 2-6-2 中高層住宅特有の被害で知っているもの—性別／性・年齢別



性別にみると、ほとんどの項目で女性の方が男性より高くなっており、「壁や天井の破損により、玄関などの出入口がふさがれる恐れがある」は女性の方が男性より11.3ポイント、「上層階に行くほど揺れが大きくなるため、家具などが転倒する恐れがある」は6.7ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別にみると、「エレベーターが停止し、閉じ込められる恐れがある」は女性18～29歳で9割を超えて多くなっている。「建物内の配管の破損により、トイレなどの下水設備が使えなくなる恐れがある」は女性70歳以上で9割半ばと多くなっている。

(図 2-6-2)

（７）住まいの中高層住宅で行っている対策

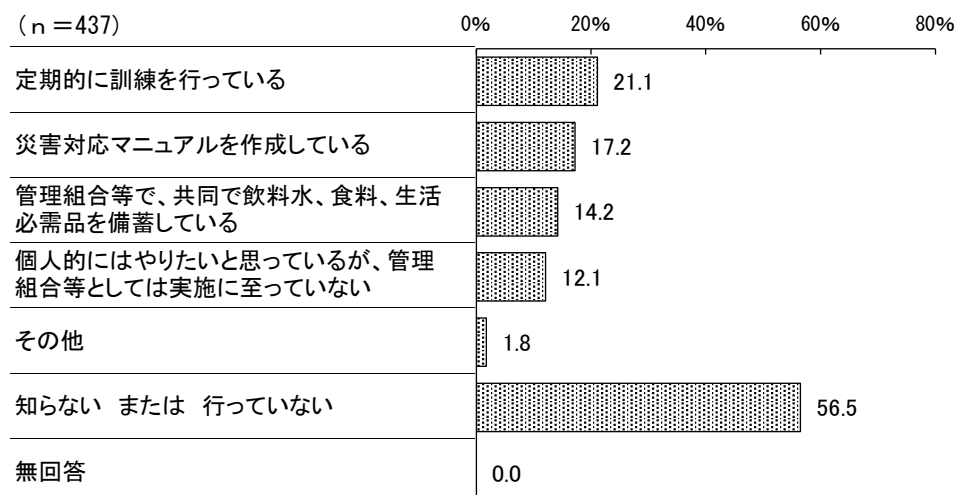
◇「知らない または 行っていない」が６割近く

【中高層住宅（３階建て以上のマンション・共同住宅）にお住まいの方へ】

問29 お住まいの中高層住宅で管理組合や賃貸住宅オーナー等が行っている対策を選んでください。（○はいくつでも）

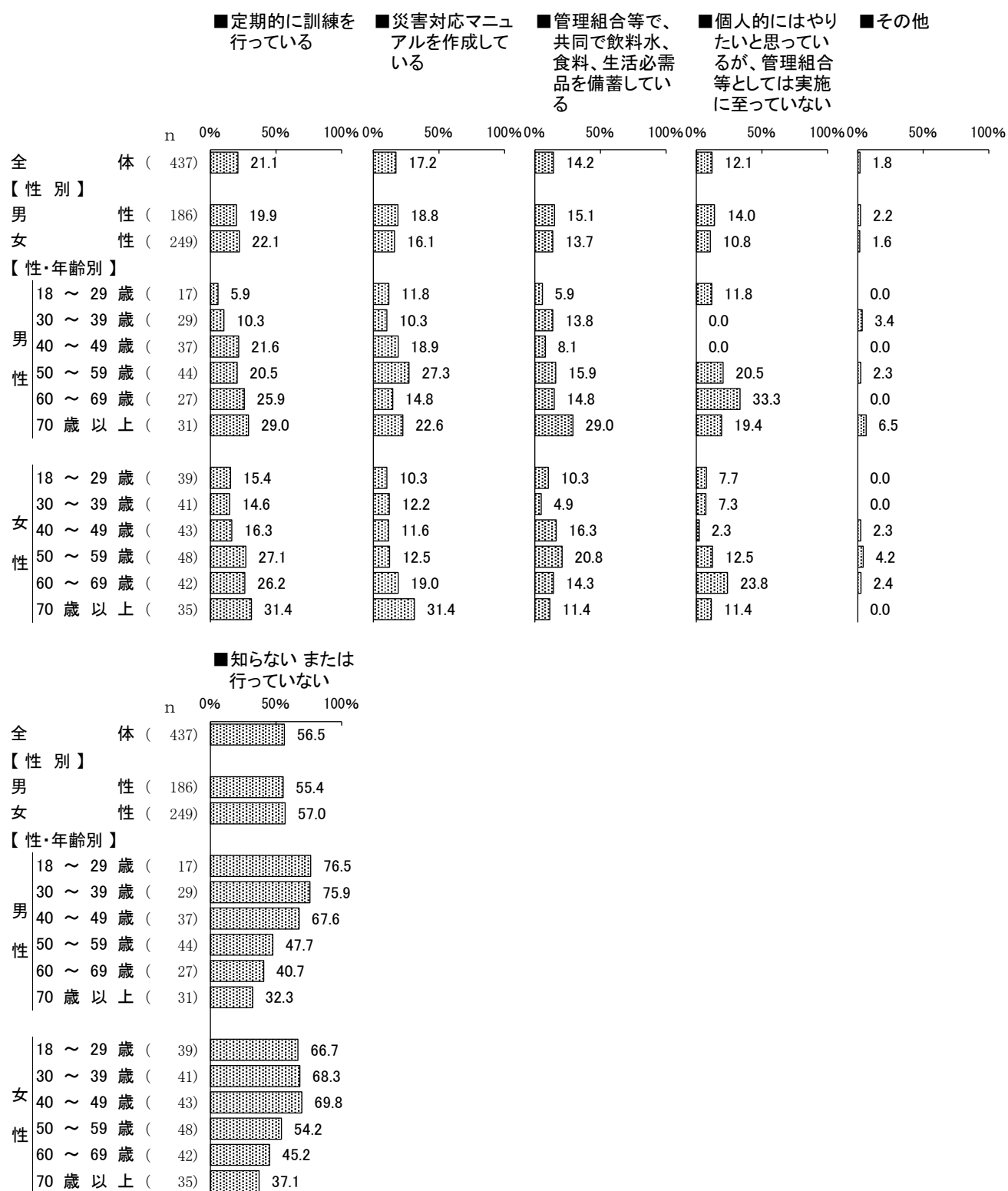
※ご自身が１・２階にお住まいでも、建物自体が３階建て以上の場合はご回答ください。

図２－７－１ 住まいの中高層住宅で行っている対策



中高層住宅（３階建て以上のマンション・共同住宅）にお住まいの方（４３７人）に、住まいの中高層住宅で行っている対策について聞いたところ、「定期的な訓練を行っている」（２１．１％）が２割を超えて最も多く、次いで「災害対応マニュアルを作成している」（１７．２％）、「管理組合等で、共同で飲料水、食料、生活必需品を備蓄している」（１４．２％）などの順となっている。一方、「知らない または 行っていない」（５６．５％）は６割近くとなっている。（図２－７－１）

図 2-7-2 住まいの中高層住宅で行っている対策－性別／性・年齢別



性別にみると、「個人的にはやりたいと思っているが、管理組合等としては実施に至っていない」は男性の方が女性より3.2ポイント高くなっている。

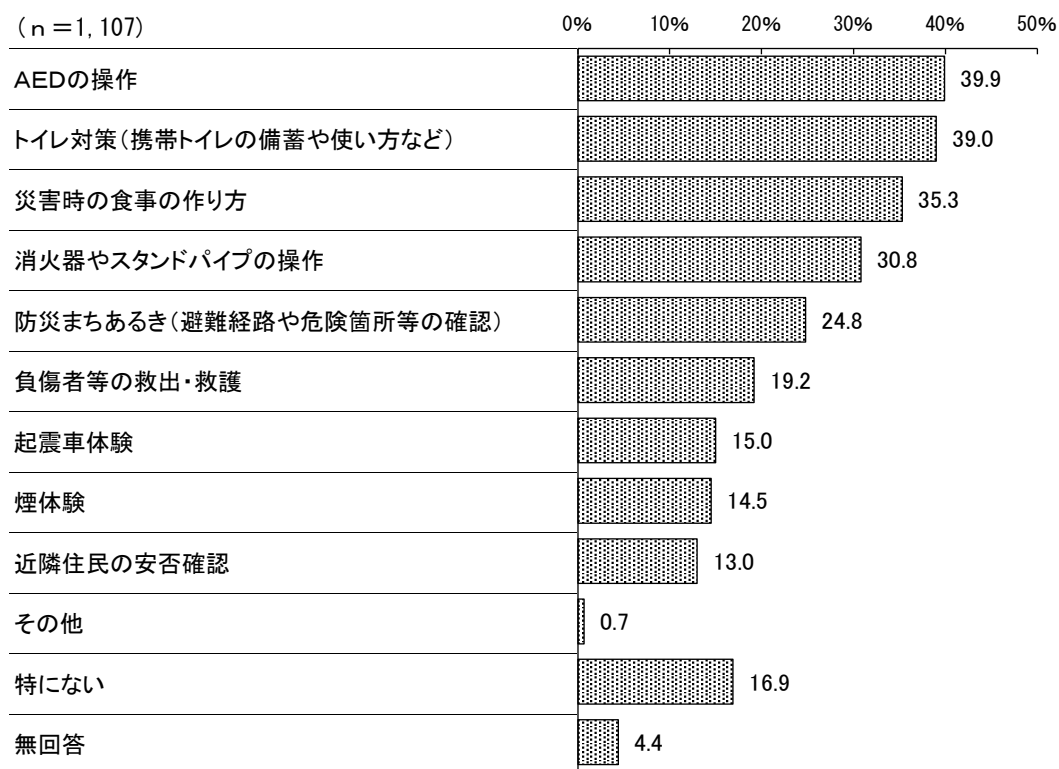
性・年齢別にみると、「定期的に訓練を行っている」、「災害対応マニュアルを作成している」は女性70歳以上で3割を超えて多くなっている。一方、「知らない または 行っていない」は、おおむね年代が下がるほど割合が多くなっている。(図2-7-2)

（８）参加したい防災訓練

◇「ＡＥＤの操作」が４割

問30 各地域では、災害に備えて日頃から防災訓練が行われていますが、あなたはどのような訓練に参加したいと思いますか。（〇はいくつでも）

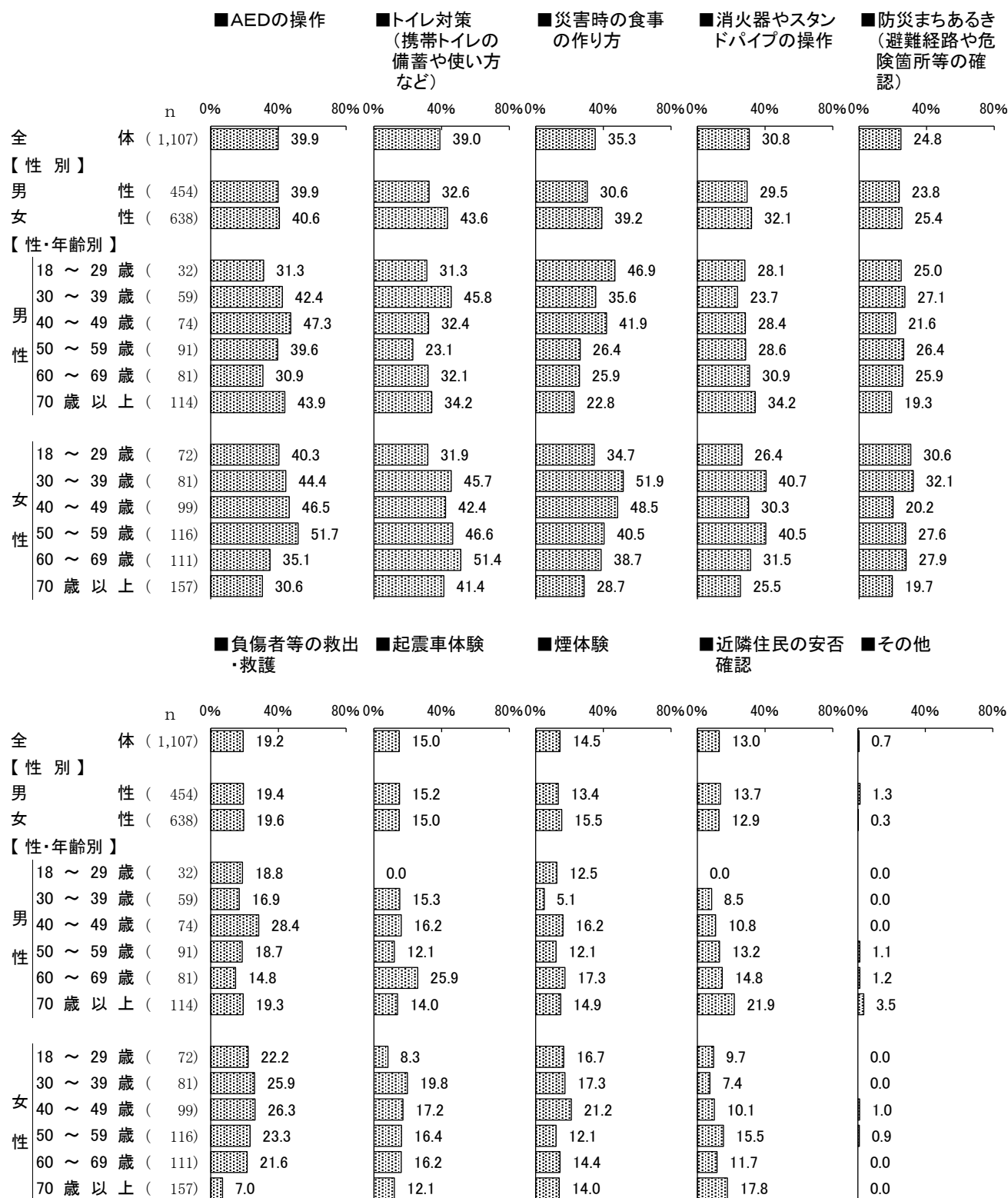
図２－８－１ 参加したい防災訓練

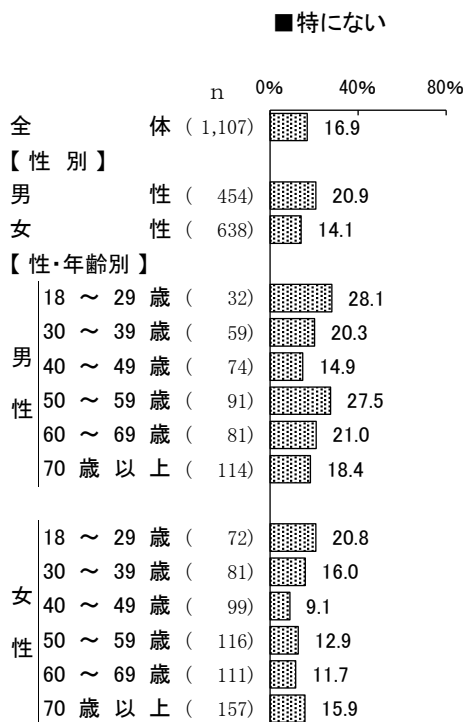


参加したい防災訓練について聞いたところ、「ＡＥＤの操作」（３９．９％）が４割と最も多く、次いで「トイレ対策（携帯トイレの備蓄や使い方など）」（３９．０％）、「災害時の食事の作り方」（３５．３％）、「消火器やスタンドパイプの操作」（３０．８％）などの順となっている。

（図２－８－１）

図2-8-2 参加したい防災訓練－性別／性・年齢別





性別にみると、ほとんどの項目で女性の方が男性より高くなっており、「トイレ対策（携帯トイレの備蓄や使い方など）」は女性の方が男性より11.0ポイント、「災害時の食事の作り方」が8.6ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別にみると、「AEDの操作」は女性50～59歳で5割を超えて多くなっている。「トイレ対策（携帯トイレの備蓄や使い方など）」は女性60～69歳で5割を超えて多くなっている。また、「災害時の食事の作り方」は女性30～39歳で5割を超えて多くなっている。

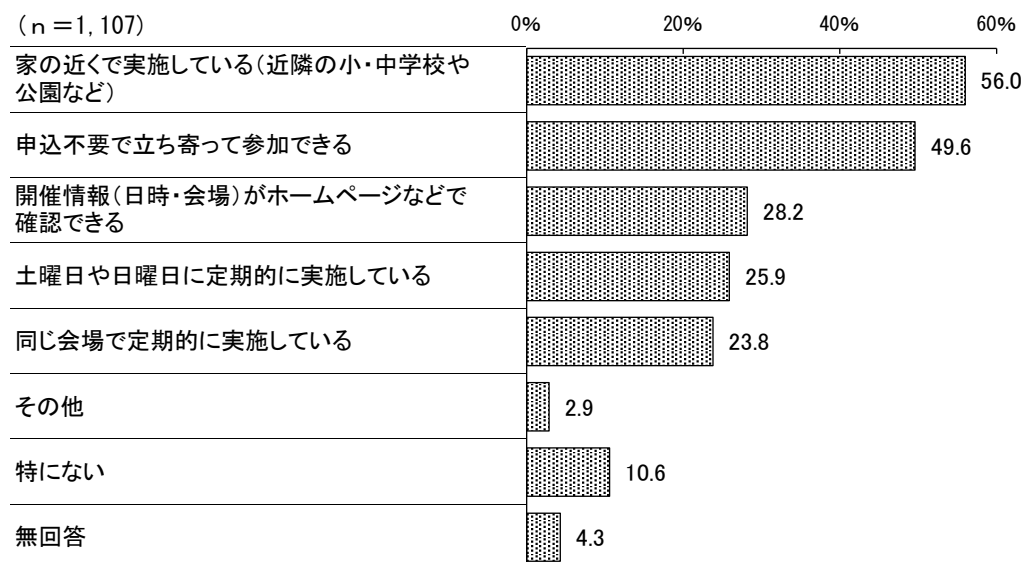
(図2-8-2)

（９）防災訓練に参加しやすくなる条件

◇「家の近くで実施している（近隣の小・中学校や公園など）」が５割半ば

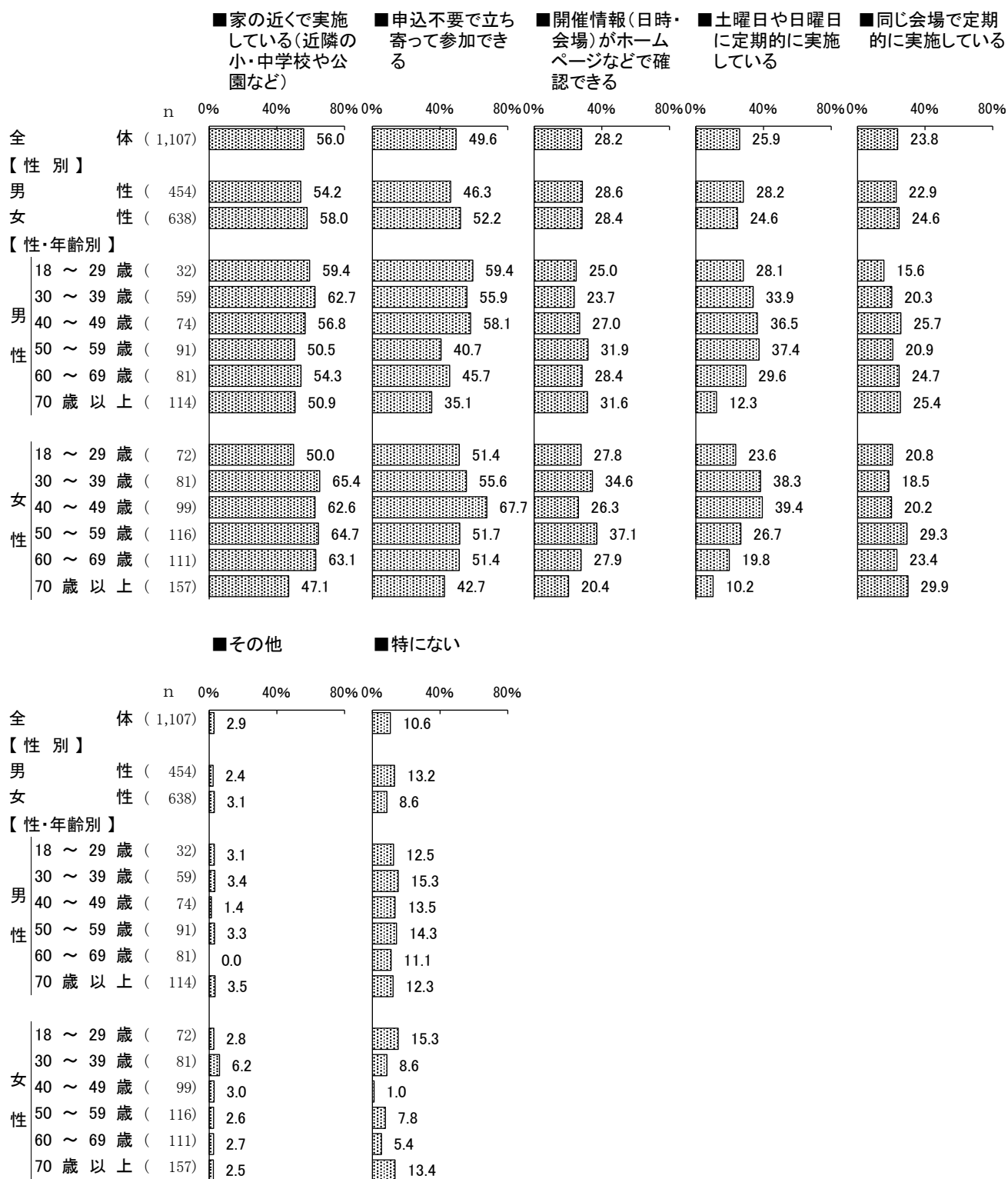
問31 どのような条件であれば、防災訓練に参加しやすくなりますか。
（○はいくつでも）

図２－９－１ 防災訓練に参加しやすくなる条件



どのような条件であれば、防災訓練に参加しやすくなるかについて聞いたところ、「家の近くで実施している（近隣の小・中学校や公園など）」（56.0%）が５割半ばと最も多く、次いで「申込不要で立ち寄って参加できる」（49.6%）、「開催情報（日時・会場）がホームページなどで確認できる」（28.2%）、「土曜日や日曜日に定期的に実施している」（25.9%）などの順となっている。（図２－９－１）

図 2-9-2 防災訓練に参加しやすくなる条件－性別／性・年齢別



性別にみると、「申込不要で立ち寄って参加できる」は女性の方が男性より5.9ポイント、「家の近くで実施している（近隣の小・中学校や公園など）」は3.8ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「土曜日や日曜日に定期的に実施している」は男性の方が女性より3.6ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「家の近くで実施している（近隣の小・中学校や公園など）」は女性30～39歳、女性50～59歳で6割半ばと多くなっている。「申込不要で立ち寄って参加できる」は女性40～49歳で7割近くと多くなっている。（図2-9-2）